

絵本「だつてだつてのおばあさん」  
 (※)を知っていますか？おばあさんの九十九歳のお誕生日に猫がろうそくを買いに出かけます。

しかし、途中でろうそくを落とし、五本しか持って帰ってこられませんでした。「ごめんなさい」と泣く猫に、五本のろうそくを立てたケーキを見て「無いよりましよ。」と言い、「五歳のお誕生日おめでとう」と祝ったのです。次の日おばあさんは猫に誘われ魚釣りに出かけます。今までは「だつて九十九歳だもの」と断っていました。が、お誕生日のお祝いの次の日からは、「そうね、私五歳だわ」と猫と一緒に川を飛び超えたり、魚を釣ったりして楽しめるようになりしました。絵本のお話なので意図するところは違いかもしれませんが、年齢に関係なく、自分らしくあろうとするおばあさんがステキに思えました。

先日読んだ本に、三つの「らしさ」で自分の周りにいる人たちを考えてみませんか？と書いていました。

三つの「ら」とは、「らしく」「らしさ」「らしい」。「らしく」とは、自分が求める姿やありよう。

「らしさ」とは、他の人や社会が求める価値観。「らしい」とは、

三つの「ら」

おもんばかって考えたり、行動する意味ではないか、とありました。女らしく・男らしく・社会人らしい：三つの「ら」の上につく言葉が、社会が求める価値観を持つものであれば、それに縛られるような、押し付けられるような気がします。しかし、自分らしく、あなたらしく、彼らしく：となると、励まされたり、認められているような気持ちになります。

人には得意なことや苦手なことがあります。また、興味や趣味も人それぞれです。一人ひとりが気持ちよく生活していくためには、その人らしさが暮らしの中で生かされているか考えてみてはどうでしょうか。その人らしさが大事にされるそんな関係が作れたら生きやすくなるのではないのでしょうか？人それぞれの「らしさ」や「らしく」が尊重される社会になったらいいと思いませんか。

※参考文献

「だつてだつてのおばあさん」

著者 佐野 洋子

出版社 フレーベル館

■問い合わせ

人権啓発広報委員会

☎ 880・6569